

会 員 の 皆 様 へ

この度、JAREX会員（協賛会員を除く）の皆様にご公共調達関係の理解を深めるため、日本大学教授木下誠也先生の書籍をお送りいたします。現在の国の公共調達の発注方式は様々な問題を引き起こしており、調査士や司法書士の業界においても同様であると思います。木下先生はこの問題を日本の公共調達の過去の歴史から研究され、何が問題なのかを論じられています。本書は主に公共工事や建設コンサルタント等について論じておりますが、調査士、司法書士の公共調達制度を再構築するためのヒントが数多く詰まっておりますので皆様の参考となることを期待いたします。

著者紹介 木下誠也（きのした せいや）



1953年生まれの大阪市出身。1976年に東京大学卒業。1978年に東京大学大学院工学系研究科修士課程修了。同年建設省（現・国土交通省）入省、総合政策局国際建設課長、水資源部水資源計画課長、内閣府沖縄総合事務局次長、近畿地方整備局長などを歴任。2009年財団法人ダム水源地環境整備センター審議役、2010年愛媛大学防災情報研究センター教授、2014年日本大学生産工学部土木工学科教授に就任、現在に至る。

産工学部土木工学科教授に就任、現在に至る。

本書は木下先生が国土交通省在任中に中心となり立法化された法律の「公共工事の品質確保の促進に関する法律」や東京大学学位請求論文「わが国の公共工事の入札契約制度と企業評価制度の歴史的考察」がベースとなっております。

現在の国の行っている土地家屋調査士業務の入札は価格のみに偏執しており、資格者の果てしない競争を惹起し、いわゆるダンピングの結果、「安かろう、悪かろう」のたとえ通り業務の品質に悪影響を及ぼし、またダンピング受注を許容するとその業務に影響が出なくとも、登記業界の経営に影響し他の業務等に影響を及ぼしている現状があります。品質の確保という観点が低いと、安値を求めて結果として後にツケを残していないでしょうか。この問題を解決する方策を研究する意味においても本書を一読していただきたくお願い致します。JAREXはシンクタンクです。

2016年2月11日 一般財団法人JAREX

理事長 柳平幸男